

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370900540		
法人名	医療法人 あけぼの会		
事業所名	グループホーム さくらのいえ (ガーデン)		
所在地	〒021-0821 岩手県一関市三関字日照77-2		
自己評価作成日	令和6年6月15日	評価結果市町村受理日	令和6年9月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体が内科クリニックの為、日頃から医療相談しやすく迅速な対応ができており健康維持管理に努めております。市内中心地に平成16年にガーデン・平成22年にテラスに開所しました。住み慣れた住宅地の環境で、隣のユニットと気軽に行き来でき、入居者同士で気分転換が図れるようしております。 共用型デイサービスを開設しており、入居をご希望されておられる方が、日頃から入居後に住まいする空間や、利用者職員との関係を構築することで、スムーズに入居生活に馴染めるようにように配慮しております。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は「ガーデン」と「テラス」の2つのユニットからなる医療法人を運営母体とするグループホームである。殆どの利用者は月1回の同法人の内科の訪問診療を受診しているほか、月2回看護師が訪れ健康状態のチェックを行い日常の健康面でも医療機関との連携がしっかりと図られている。代表者、施設長、管理者と職員、職員間の関係も良好であるうえ、利用者同士も互いに支え合いながら共同生活をしており、理念の「ゆったり、いっしょに、たのしく、ゆたかに」を文字どおり実践している。職員手作りの食事は、外出機会の少ない利用者にとって大きな楽しみになっている。特に食材は、事業所の家庭菜園で職員と一緒に採った野菜など旬の食材の提供に努めているほか、味が好評の米は契約農家から安定的に仕入れている。防災面では、事業所の立地場所が河川の氾濫による浸水想定地域であるため、過去の教訓を生かして日頃から避難方法を検証・実践している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和6年8月20日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が	「評価機関・特定非常利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会」			
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくらのいえ (ガーデン)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	平成16年の開設当初からの理念「ゆったり、いっしょに、たのしく、ゆたかに」の実践に向け、どのように支援にあたるべきか、職員は常に意識しながら、利用者への声掛けなどを行っている。理念に照らし、一人一人のプランに、その人に合った介護の目標を、具体的に設定するよう努めております。	昨年、法人全体の理念の変更があったが、利用者が豊かな生活する場所であるという基本的考え方を大事にしていいため、開設当初からの理念「ゆったり、いっしょに、たのしく、ゆたかに」を引き続き掲げている。申し送りやケアプラン作成時には理念を念頭に意識しながら利用者支援に努めているが、今後は、さらに理念の共有実践に努めたいとしている。	理念について、時々には立ち止まって、職員の目線と方向性を合わながら、より思いに沿ったケアに努められることを期待します。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症に関わる対応が緩和され、ご家族を中心とした、外部との交流の機会を、徐々に広げる努力をしている。地区の区長を中心に、防災対策を考案したり、地域商店街からの野菜購入や、隣接の菓子店からの菓子購入などを通して、交流を図っております。	地域行事への参加は、コロナ禍の影響がまだあるため控えているが、広報等の配布は自治会の会員として継続している。今後、地区の敬老会やお祭りのほか、保育園や小学校など、子どもたちとの交流も実施したいと考えている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市内の居宅介護支援事業所と情報交換をしながら、相談窓口に来所される、地域の方々に情報提供を試みております。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地区の民生委員や、児童委員を中心に構成されており、感染症予防対策から、令和3年より、書面会議を行ってまいりました。状況を勘案しながら、集合会議の開催も検討しており、施設の運営課題、地域交流等をテーマに意見や提案を求めて行きたいと計画しております。	コロナ禍のため現在まで書面会議の方式で開催しているが、今年度から対面方式に戻してはと考えている。6人の委員のほか、浸水対策などの防災面を中心としたアドバイスを特別顧問である前の行政区長から得ているほか、児童委員を努める特別顧問のご家族もオブザーバー的に経験を踏まえた見地からご意見をいただいている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の長寿社会課や介護保険課からは、主にメールで様々な介護行政の情報の配信されております。必要に応じ、電話で照会したり、直接訪問し、助言・指導を得ており、市とは円滑な協力関係が構築されております。	担当職員の来訪はないが、介護に関する情報はメールで配信されるほか、介護保険認定関係等の手続きについては、職員が広域行政組合の担当課に直接出向き指導や助言を受けている。防災情報については、消防本部に直接出向いて収集している。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくらのいえ (ガーデン)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束廃止委員会」に関する要綱を定め、職員で構成する委員会を、3か月ごとに開催し、身体拘束をしないためのケアや、スピーチロック防止のための言い換え言葉等の話し合いを行っている。年2回は、関係資料を用意し、職員研修を実施しております。	身体拘束廃止委員会を3か月に1回、開催しているほか、職員会議に併せて年2回の研修を行い身体拘束をしないケアの実践に努めている。玄関は両ユニットのうち「ガーデン」では施錠していないが「テラス」では施錠が必要な利用者がいるため日中も施錠している。夜は防犯のため両ユニットとも施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「身体拘束廃止・虐待防止委員会」を設置し、定期的に関係資料を提示したり、他施設の取り組みの様子等を施設内研修で考察し職員の意識向上を図っている。、入居者の身体状況や訴えに注意を払い、施設内でも身体状態に異変を見つけた時は、事故報告書を用いて情報の共有を試みており、身体に異変を見つけた時は速やかにご家族に連絡し、適宜、対応策を検討しております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利譲渡に関しては常に個人を尊重し、自立支援の観点に立ち、ご利用者様の権利擁護を支援しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学や申し込みの段階から、ある程度の説明をさせて頂き、入居の際は特に関係書類を基にご納得頂けるようご説明しております。利用料の支払いは、金融機関への振り込みとしておりますが、手数料が発生しないシステムにしております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には、毎月発行する「さくらのいえ便り」にスナップ写真を掲載し、日常生活の様子をお伝えしております。ご家族との面会も、規制を緩和しており、利用者の体調に合わせ、外泊も含めた交流を行われております。ご家族から要望が寄せられた時は「申し送りノート」を活用し、職員間で共有を図っております。	家族が通院等の送迎や利用料金の支払いに来訪された際に、意見などを伺っているほか、各ユニット玄関に苦情箱を設置して意見を投稿できるようにしている。4月に入居した利用者は、家族の希望で毎週末に市内の自宅に外泊している。利用者の要望等は申し送りノートを活用して職員間で共有している。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくらのいえ (ガーデン)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は毎年3月に職員と面談し、職員各位の勤務条件・仕事への思い・今後の希望等を聴取し必要な助言を行っております。また、職員各位が業務目標を決め、施設長や管理者に助言、指導を行う「目標管理」的な手法も取り入れ、職員の資質向上に努めております。	毎年3月に施設長が職員と面談し、勤務条件などの希望を聞いている。例えば介護福祉士の資格取得や親の介護と仕事の両立希望などである。その際、個々の職員の業務に関する年間目標を設定し、翌年3月の面談時に結果を確認している。インターネット環境の整備(令和5年)は、職員からの提案が具体化されたものである。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は将来性を考えて事業所の計画をしており、職員の努力等が生かせるように法人内の人事異動も含め、職場環境の整備に努めております。県や市の補助事業にも留意しながら、設備の充実を図っております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は、認知症介護基礎研修を2名の職員が受講致しました。認知症実践者研修や外部の研修は、職員が交代で研修できる機会を計画しております。また、新人職員にはケアの実際のほか話し合いを多くもち精神面でのフォローを大事にしております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人の居宅介護支援事業所から、他事業所の取り組みについて、情報を提供して頂いております。また、インターネット上のホームページ等を活用して、情報交換を試みております。書類作成や同業者の情報を頂いたりしながら、施設サービスの向上に反映しております。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所相談・入所に向けたデイスサービスを通し利用者に会う機会を作り、本人の不安や要望を傾聴し、不安意識の軽減に努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所相談・見学の段階からなるべく直接来所していただき、お話を傾聴しております。本人のこれまでの生活歴や、現在、特に困っていることなどを明確にさせて頂き、家族の思いを受け止めるよう心掛けております。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくらのいえ (ガーデン)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	共用型ディサービスを活用して頂きながら、他事業所との情報交換に努めております。事業所として対応できることなどの助言をして、必要に応じケアマネジャーや包括支援センター、各サービス事業所と連携をとり対応しております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の生活歴より、得意分野を見出し日常生活に反映しております。日頃の言葉遣いや、寄りそう姿勢に留意し、一緒に生活する者同士として、尊重し合っております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者の心身の状況に変化が発生した時は、即座に家族に連絡し、ご利用者様の状況を把握して頂けるよう努めております。ご面会の際には生活の様子を報告し、ご家族様とご利用者様が憩いのお時間を育めるよう、配慮しております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の高齢化の伴い、来訪される、友人・知人が少なくなってきたことに加え、地域の方々もコロナやその他の感染症を施設に持ち込まないという意識が強くなられ、来訪を自粛されております。施設内で、季節に応じた行事を企画し、ユニット同士で交歓できる機会を多くつくるよう努めております。	コロナ禍が薄れ家族との面会は緩和されつつある。馴染みの関係は、家族やかかりつけ医、看護師のほかデイサービスの利用者、一方のユニットあるいはグループホーム利用者同士にも馴染みの関係が生まれている。定期的に訪れる理容師や福祉用具担当者とも顔馴染みとなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の居室やリビング以外にも、廊下のコーナー席や気軽に話ができるミニ談話スペースを設けております。また、利用者の居室にもソファ等を用意し、孤立しがちな利用者には、職員が寄り添い他の利用者とかかわりやすい雰囲気作りを支援しております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他の施設に移られたあとも、ご家族や他施設からのご要望に応じて、退所後も相談できる場として関係を大切にしております。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくらのいえ (ガーデン)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	多かれ少なかれ、殆どの利用者が何かしらの自己主張を表現されております。日常的な会話の中では、戦時中我慢を強いられた苦い経験談を寄せられることもあります。「昔、こんなことをやってみたかった」等々の思い出の中から、実現できることを、少しずつ実施してみることもあります。	現在、意思表示が困難な利用者はいないが、言葉を発しないときは表情などから読み取っている。入浴の際に、昔の苦労話や思い出を語ることがあり、傾聴する中で、希望などがあった場合は申し送りノートに書き止め職員間で共有しながら支援に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の際の利用者情報を活用し、またご家族からの情報を傾聴しております。日頃のケアで関わりのある職員が、ご本人の思いに触れる機会が多いので、よくお話を聞くように努めております。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の話したこと、行動などをそのまま記録するよう心掛けております。職員が観察して、困っている様子など、小さな気づきも記録し、職員間で「申し送りノート」を活用しながら、生活支援を実施しております。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居宅介護支援事業所からのプランを参考に仮プランを作成し、1ヶ月程度、状況確認を行ったうえで、正式のケアプランを作成している。基本的にはケアサービスの短期目標を6ヵ月、長期目標を1年と設定している。3ヵ月ごとに職員が交代しながら実施するモニタリングをもとに、必要時には主治医や家族からの意見も取り入れ、現状に合った適切なケアプランになるよう適時に見直しを行っている。	利用開始後の1ヵ月は、暫定的な介護計画として作成し、長期で1年毎、短期で6ヵ月毎に管理者でもあるケアマネジャーが中心になって介護計画を作成している。見直しは、各ユニットごとに割り当てられたモニタリング担当の職員が、利用者の言動などを観察してモニタリング評価を行い、ケアマネジャーが家族等の意見を取り入れながら計画の見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、通院記録・訪問看護記録等で情報を共有しております。ご本人の生活の様子、身体状況等を把握に努め、医療機関・その他関係機関と連携を取り、介護計画の見直しに反映しております。			

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくらのいえ (ガーデン)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	共用型デイサービス事業を実施しております。共用型デイを利用することで、早めに施設に慣れ、入所時のストレスの軽減が出来るように取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の理美容サービス事業者に来所して頂き、ご利用様のリフレッシュに努めております。「月間ディ」のような介護専門雑誌やYouTubeを活用し、利用者様の生活の活性化に努めております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	運営母体が医療(阿部内科クリニック)になっていることから、利用開始時に利用者と家族の希望により、かかりつけ医を法人のクリニックに変更している例が多い。かかりつけ医による月1回の訪問診療により、適切な医療受信がなされております。心療内科や眼科等特定外来の受診には、原則、家族に通院を依頼しております。法人クリニック看護師が、月2回来訪し、利用者の健康チェックや、職員への助言・指導を行っております。	殆どの利用者は、毎月、運営母体の医療機関の訪問診療を受診しているほか、皮膚科は必要な場合には往診で対応している。歯科や整形外科などは家族が同行しているが、同行ができない場合は職員が対応している。法人のクリニックの看護師は、健康管理のため月に2回訪れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人のクリニックと医療連携をしており、看護師が毎月2回来所し、ご利用様様の健康チェックを、定期的実施しております。体調変化の際は、随時、電話連絡を取り合い、医療的な対応について、指示を頂いております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時の様子などの詳細は「暮らしのシート」を作成し、文書にて医療機関に情報提供を行っております。入院期間中は、医療相談室と連携し、情報収集に努めております。退院時は、病院のカンファレンスに出席し、治療経過と、退院後の生活支援の留意点を協議しております。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくらのいえ (ガーデン)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	平成16年の開設以来、数名の看取りを経験しております。重度化が進み、施設設備での対応が難しくなった場合、食事が取れなくなった場合等には、改めて他施設への移転を相談すること、看取りは希望によりホームで対応出来ることなどについて、「重要事項説明書 追記」をもとに、利用者・家族に説明し同意を得ております。今年、3月に、看取り希望の方がおられましたが、ご家族の心境が変遷し最終的には病院でのお看取りとなりました。	令和4年度に従来の「重度化・看取り指針」を見直し、漠然としたものから現行のものに改めた。殆どの利用者と家族は可能な限りホームでの生活を継続できるよう望んでおり、重度化した場合の運営母体のクリニックとの連携は、利用者の安心につながっている。利用者の高齢化・重度化が進む中、今後は、看取り等に対応する職員に対する研修を検討したいとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時対応はマニュアル化しており、法人母体であるクリニックと連絡体制を整備しております。事故が発生した場合には、事故報告書等で詳細に報告・検証を共有し、再発防止に取り組んでおります。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ユニット合同で、春秋の火災想定訓練を実施しております。消防機器の設備点検は業者により定期的に実施し、避難誘導に必要な車椅子等は、毎月点検を実施しております。また、水害が発生しやすい地域ということで、民区区長等と協力体制を構築しております。	避難訓練はユニット合同で年2回実施し1回目は夕方の夜間想定訓練と消火器の操作訓練を行っている。事業所が立地する地域は、河川の氾濫による浸水想定区域とされていることもあり、日頃から避難方法については検討を重ねている。車椅子利用者が両ユニットで8人いるため、近くに住む職員が速やかに駆けつけられるよう徹底している。	避難訓練(災害対策)は、地域との交流の一環でもあり、近接する住民の皆さんにお知らせをするなどにより、地域の協力を得ることが出来るよう工夫されることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の個室には声掛けをしてから入室すること、触れてほしくないことは他人の前で話さないことなどを徹底しております。トイレや入浴においても、個人の尊厳を傷つけることのないように支援しております。行事の準備などを通し、利用者個々に得意なことを見出し、誇りや生きがいを持って生活出来るように支援しております。	昔コーラス部に所属していた利用者には歌を披露してもらったり、野球の好きな利用者にはユニフォームを着てテレビの前で高校野球を応援してもらったりするなど、利用者の趣味や嗜好なども尊重している。居室への入室やトイレ、入浴などの際は、利用者の気持ちを汲んで対応している。入浴は個浴で同性介護を基本にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様が、ご自身のご希望を話しやすい状況や場所等にも配慮しております。自己決定が難しい場合には、提案したり思いを汲み取るように努力しております。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくらのいえ (ガーデン)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴など、基本的な生活時間は概ね決まっておりますが、その時の本人のペースを大事にし無理強いしないようにしております。日中の生活は、個々の過ごしたいように過ごして頂いております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様のご希望をお聞きしながら、理美容サービスの利用を支援しております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、担当職員が立案し、週2回の買い出し、調理は両ユニットの職員が交代で行っております。行事食等は、利用者から食べたい献立を聞き取り調査し、喜ばれるメニューを工夫しております。ホットケーキなどのおやつ作りは、テーブル席での実施なので、人気があります。また、お米は、代表者がその年の収穫時に、契約農家から一括して購入しており、心配なく、ご利用者に供給することができております。	献立は決まっているが、利用者の希望を毎日聞いて柔軟に対応している。職員の手作りによる食事は利用者にとって大きな楽しみの一つとなっている。味も利用者に好評である。季節の食材の提供にも心掛け、事業所の畑で採れた野菜を利用している。誕生食は希望を聞いている。米は契約農家から購入し価格を含め安定的に入手している。利用者は調理や配膳は困難だが、テーブルの拭き取りなどを手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量や水分摂取量を記録し把握しております。好き嫌いのあるご利用者様には、別メニューの食事をご用意したり、調理方法、配膳の仕方を工夫しております。また、食事摂取量が低下した場合には、メイバランスやクリミールなどのような栄養補助食品も活用し、体力低下の予防を心掛けております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、うがいや歯磨きを支援しております。義歯使用の方は、義歯洗浄剤を使用し、口腔ケアに努めております。ブラッシングやうがいを行う力が低下された場合は、口腔ケア用スポンジ等も活用しております。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくらのいえ (ガーデン)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	殆どの利用者がトイレでの排泄を希望し、トイレを利用できるよう日常生活リハビリに取り組みられています。トイレを利用しやすいような、排泄ケア製品を、担当職員がメーカーと相談し、利用者のQOLの維持に努めております。排泄チェック表を記入し、排泄状況を把握し、職員間でケアの方法を統一し、自立支援に向けた支援を試みております。	利用者ごとに排泄チェック表をつけて声掛け・誘導を行っている。殆どの利用者はリハビリパンツを使用しているが、ポータブルトイレの使用はない。夜間にトイレに起きる方は3人おり、うちテラスの1人は転倒防止のため離床センサーを使用している。入居前に寝たきりだった人が、入居後、体力が回復しトイレで排泄できるようになった例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご本人の訴えのみならず、定時のトイレ誘導や、指示薬等の使用を実施しながら、便秘解消に努めております。野菜など繊維を含んだ食品して頂き、牛乳や水分の摂取を促しております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっておりますが、個々のペースを大事にしております。楽しい入浴時間をお過ごし頂きたいと、歌を歌ったり、菖蒲湯やゆず湯など、季節を感じて頂けるような工夫も施しております。車椅子利用者の場合は、複数職員で安全に介助を行い、ご本人とご家族が希望される場合には、他事業所の訪問入浴を利用させて頂く場合もございます。	入浴日は原則として月曜と金曜の日中であるが、水曜も可能としている。プライバシーに配慮し個室で同性介助としている。利用者は入浴中に民謡などを口ずさんだり、職員と戦時中や若い頃の話をするなど、楽しいひと時となっている。菖蒲湯など季節を楽しむ工夫もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は個々のペースに合わせて、着替えや口腔ケアの支援をしております。日中でも、自由に自室で休息をお取りして頂いております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤の説明書に沿い、ご利用者様の服薬内容の理解に努めております。内服薬の変更時には、「申し送りノート」等に詳細を記載し、職員の情報共有に努めております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションや、施設の行事の準備の中で、それぞれの得意分野を活かせるよう職員がお声掛けをしております。隣のユニットに気軽に遊びに行き、交流を深めております。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくらのいえ (ガーデン)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染症予防を考慮しつつ、ご家族とご相談しながら支援しております。外出は、かかりつけ医への通院が主となっておりますが、通院後に家族と食事をしたり、自宅に立ち寄ったり、買い物をしたりと、楽しみのお時間も設けておられます。施設としては、避難誘導訓練も兼ね、利用者に交代で公用車に乗車して頂き、市内の公園などにドライブに出掛けております。	コロナ禍以前は近くの公園などに散歩に出かけていたが、現在は磐井川堤防の花見や紅葉狩りのほか家庭菜園の作業を通して自然とのふれあいを楽しんでいる。かかりつけ医への通院の際に自宅に立ち寄り買物をしたりする方、毎週自宅へ外泊する方など、本人の希望に沿った外出支援に努めている。コロナ禍解消後は以前のように近くの公園を散歩したいとしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段の金銭管理は、ご家族が実施しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に沿い、施設の設置電話を活用し、家族等への電話を支援しております。手紙やハガキ等も随時、対応しております。利用者・家族の希望に応じ、個人携帯電話も利用して頂いております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	車椅子利用者が多いことから、安全面への配慮を重視し、毎日の掃除や整頓を実施しております。明るく居心地のよい空間であるよう心掛け、なるべく自然の採光を取り入れ、室内を季節ごとに飾り付けをしております。リビングルームでは、エアコンやファンヒーター、加湿器を使用し、室温と湿度を管理しております。	共有部分は、アイボリーの壁や木質のフローリングで落ち着いた雰囲気であり、エアコンと加湿器により一年中快適に過ごすことができている。清掃は徹底され、嫌なニオイは全くない。両ユニットとも壁には入居者が作った塗り絵や切り紙、家庭菜園の花などを飾り、季節感を採り入れている。テレビは見たい方がいるときだけスイッチを入れ、付けっぱなしはしていない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの簡易ソファを利用したり、中庭に椅子を置き、外気浴を行ったりして気分転換を図って頂いております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ベッド、クローゼット、洗面台等が配置され、利用者は入所時に、家族と相談しながら、馴染みのぬいぐるみや家具・家族の写真等を持参されております。各自、ご自身の居室をアレンジして、居心地の良いお部屋作りをなされております。	居室にはベッドやクローゼット、洗面台が備え付けられている。それぞれに写真やぬいぐるみのほかテレビやラジオ、時計のほか遺影、位牌などを持ち込み、居心地よく過ごせるように工夫をしている。清掃は自分でやる方、職員と一緒にやる方など様々あり居室毎に対応している。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム さくらのいえ（ガーデン）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内では、ご利用者様が安全に移動できるよう動線を確認し、自由に歩行して頂いております。トイレや浴室に入口にはわかりやすいように手作りの表示をして、夜間にも迷わないよう工夫しております。		